

福島医大6年生の皆さんへ 福島労災病院で初期研修をしてみませんか？



福島労災病院
院長 大和田 憲司

福島労災病院は、福島医大の皆さんが有意義な初期研修医として有意義な研修が送れるよう、職員をあげて支援して参ります。

臨床医としての第一歩を温暖な気候のいわきの福島労災病院で踏み出してみませんか？

各診療科とも週1回は症例検討会を開催しており、診断や治療方針について、皆で検討しています。そして、研修医の皆さんが経験した症例は、どのような経過をたどっているのかが分かるような教育に配慮しています。また、剖検例については、病理医(箱崎先生)の指導下に積極的に臨床病理検討会(CPC)を行っています。そして、その結果を学術論文としてまとめて福島労災病院医誌に掲載しています。将来、医師として大きく羽ばたくために必要な学会発表の準備やプレゼンテーション、医学論文作成の基本を習得することができます。

基本的には研修医1人と指導医1人のマンツーマン方式で患者さんの診療にあたります。指導医と一緒に、一人ひとりの患者さんを初診から診断そして治療にいたる過程を経験することで、病気を治すのではなく、人を治すことの難しさや大切さ、そして喜びを学んでいただきたいと思います。教え好きの指導医が多いのが特徴です。



初期臨床研修医の募集人数は2名と少数です。したがって、医師を含めた病院スタッフは皆、研修医の顔と名前はすぐ覚えてくれます。研修医も各診療科の混合となっている医局に机を並べることとなります。お互いの顔が見える診療と教育をモットーにしています。



労災病院ならではの7つの特徴

① 研修医が少ないので、基本手技がたくさん出来ます

研修医が少ないので、CVライン確保や気管内挿管などの基本手技がたくさん実践できます。

② 多数の一次・二次救急患者を経験できます

当病院には救命救急センターはありませんが、磐城共立病院に次いで救急患者を積極的に受け入れており「初期研修における救急」にあたる一次・二次救急患者を多数経験でき、自分で診て、考え、そして診断するという総合的な診断能力を養うことができます。

③ がん診療の理解が深まります

当院は「がん診療連携拠点病院」であり、がん診療の初期から終末期まで包括的に関わり、「主治医力」を磨くチャンスがあります。県内で2施設しかない緩和ケア病棟(27床は東北1位)を有し、在宅医療にも積極的に関わることで、臨床医として家族や社会との関わりも学ぶことができます。

④ 胃・大腸内視鏡の件数は、福島県内第1位！！

ジェネラリストとして必須の手技である消化管内視鏡を多数経験出来ます。

⑤ 急性心筋梗塞や急性心不全の患者が多い

初期対応を誤ると不幸な転帰をとる循環器系の急性期の症例を多数経験出来ます。

⑥ 外科の手術症例は県内有数です

大腸悪性腫瘍手術は200件(東北3位)を超え、胃切除や腹腔鏡下胆摘の件数は各々100~150件と県内屈指です。福島医大との連携のもと、甲状腺の手術の多いことも特長です。

⑦ 院長以下、スタッフが全員あなたのメンターです

研修医を大事にしながら、時には厳しく、良き臨床医になるべく、院長以下、スタッフ全員が十分にサポートいたします。